



まちの名に 歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係
(TEL 893・8111)

ほしだみょうけん

星田妙見

山腹や山頂に巨岩がある山には、神社や寺院が建てられることがよくあります。これは、古代の自然崇拜からきたものだと考えられます。

星田妙見の山も元々はこうした自然崇拜の対象であったと思われます。星田の妙見山のご神体は八丁三所の一つで、別名「織女石」とも言われ、七夕伝説とも関わりがあります。妙見信仰は正式には「北辰妙見信仰」といい、天にあって動かない星である北辰（北極星）に対する信仰でしたが、次第に北斗七星をも含んだ信仰へと変化していきました。星田地区の妙見という地名は、この妙見信仰に基づくものです。

しらみず

白水

白水付近の谷になっている所は、星田の旧集落を流れる中川筋にあたります。付近の丘陵の高い部分から湧き出る水が全現堂池に集まり、中川へと流れていきます。この湧き出た清らかな水が地名の由来だと考えられます。

全現堂池には、浅間神社の小さな祠である「浅間堂」があります。「ぜんげんどう」という名前は、浅間を音読みした「せんげん」が転訛したものだと思われます。



浅間堂

ひもだに

経谷

白水の南にあたり、付近の丘陵に囲まれた細い谷間が経谷です。ここは谷が浅く、大水や土砂の氾濫の心配もなく、清水が湧き出るため、集落の形成や、水田を営むのに非常に良い条件を備えていました。そのため、この谷が開けた場所に、星田の旧集落がありました。



星田妙見宮(上)と
織女石(右)



ほし もり

星の森

傍示川の東側にあり、今ではほとんどが住宅地となっています。そこには小さな森に小さい社があります。その社は石がご神体で、弘法大師にまつわる伝説があります。

伝説では、平安時代の初め、弘法大師が獅子窟寺で修行をしていると、妙見山と光林寺、星の森に七曜星（北斗七星）が降ったと言われています。

星田では、この星の降った3か所のそれぞれの距離が八丁（約870m）あることから八丁三所と言い、星の霊場と考えられています。



星ノ森之宮由緒(上)と
星降石(左)

